

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 23 日現在

機関番号：32305

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2016

課題番号：25463440

研究課題名(和文) 治療中のがん患者のセルフケア能力向上を支援する看護アプリケーション・モデルの開発

研究課題名(英文) Development of the nursing application model to improve self-care agency for cancer patients under treatment

研究代表者

吉田 久美子 (Yoshida, Kumiko)

高崎健康福祉大学・保健医療学部・教授

研究者番号：70320653

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,900,000円

研究成果の概要(和文)：治療期にあるがん患者のセルフケア能力尺度を開発した。尺度の適合度指標はGFI=0.911、AGFI=0.878、RMSEA=0.071、Cronbach'係数は0.900であった。3因子15項目の二次因子モデルから構築された外的基準とも有意な関連性が認められた。
Kumiko YOSHIDA, Kiyoko KANDA, Development and Validation of the Self-care Agency Scale for Cancer Patients under Treatment, THE KITAKANTO MEDICAL JOURNAL, 67(1), 13-21, 2017.

研究成果の概要(英文)：This study was aimed at developing a reliable scale for assessing the self-care agency of cancer patients under treatment. Items on the Self-care Agency Scale for Cancer Patients Under Treatment (SAC) were developed using a qualitative study. A convenience sample of 303 cancer patients was utilized. The fitness indices for the scale were as follows: Goodness of Fit Index (GFI) = 0.911; Adjusted GFI = 0.878. The Cronbach's coefficient value was 0.900. The SAC was developed as a secondary factor model that included 3 factors and 15 items. The results of the evaluation from this scale correlated significantly with those of outside standards. The SAC's construct validity, criterion validity, and reliability were all confirmed.
Kumiko YOSHIDA, Kiyoko KANDA, Development and Validation of the Self-care Agency Scale for Cancer Patients under Treatment, THE KITAKANTO MEDICAL JOURNAL, 67(1), 13-21, 2017.

研究分野：がん看護学

キーワード：セルフケア能力 がん患者 治療期

1. 研究開始当初の背景

本研究の基礎的研究である概念分析の結果においてがん患者のセルフケアは、『情報の探索と活用により意思決定を行いながら、状況に応じた対処と保健行動の実行から構成される』と定義づけられた(吉田・神田 2010 年)。さらに、その定義をふまえがん患者のセルフケア能力を明らかにした研究(吉田・神田 2012 年)によって、セルフケア能力は【体調の変化をとらえる能力】【自主的に判断し保健行動を形成する能力】【がんの存在にとらわれないよう思考を和らげ進む能力】【人とのつながりを保ち社会生活を調整する能力】【生き方を見つめ自己の発達を促す能力】の5つが含まれ、セルフケアを促すための総合的な能力であることが明らかになった。看護師には患者の個別性を重視し、セルフケア能力の状態を客観的に理解した上で、適切に支援していくことが求められている。がん患者のセルフケア能力を患者自ら活用できるよう支援していくことが QOL の維持向上につながると考えた。

2. 研究の目的

本研究は、がん患者の生活の質の向上という長期アウトカムに向け、がん患者用セルフケア能力尺度を開発し、その後、セルフケア能力の向上に向けた支援モデルを開発する。そして支援モデルの実施・評価と臨床での活用までを目的とした。

3. 研究の方法

研究の段階として第1～第2段階を設定し、平成28年度までに第1段階まで終了した。

<第1段階>

・長期的アウトカムを『がん患者がセルフケア能力を活用し QOL が維持向上すること』と明確に設定の確認をした。

・セルフケア能力尺度の開発に取り組んだ。以下の研究方法により完成させた。

1. 用語の操作的定義と概念モデル

1)用語の操作的定義

(1)治療期にあるがん患者のセルフケア能力：治療を受けながらよりよい生活を送るためにセルフケアの実行を支える能力である。また、これまでの治療の体験から獲得した健康管理に対する自覚や心がけ、あるいは医療者より得た気づきや学習から形成される能力とする。

(2)Self-care：治療期にあるがん患者がより安定した生活を送るために健康管理に関する行動としてセルフケア能力を活用し意図的に行う、あるいは継続的に実践することとする。この行動には、状態の悪化を抑えるための保健行動の実行やがん治療に伴う副作用や状態への対処、がんに関する情報の探索と活用、生活を保持するための意思決定を含む。

2)概念モデル

暫定版質問紙の作成にあたり「がん患者のセルフケア」の概念分析や「治療期にあるがん患者のセルフケア能力」の研究結果をふまえ、またオレムのセルフケア看護論を参考に概念モデルの作成を行った。研究の枠組みを構成するための6ステップを経て作成した。

2. 暫定版質問紙の作成

治療期にあるがん患者のセルフケア能力のカテゴリーや、がん治療に伴う副作用症状への一般的なセルフケア行動なども考慮し質問項目を検討した。そして、理論上の下位尺度として4因子を設定し、因子毎に質問項目を整え患者がわかりやすい表現で質問項目の原案を作成した。

その後、質問項目の原案の妥当性について、Oncology Certified Nurse Specialist の5名とがん看護研究で尺度開発の経験をもつ5名の研究者の計10名よりアドバイスを受けた。因子と項目の合致性について一致率の基準を80%以上とし、該当した項目のみ採用し暫定版質問紙の妥当性を確保した。

3. 対象者

関東信越地区の4カ所の病院の外来において化学療法、放射線療法、ホルモン療法のいずれか、あるいは複数のがん治療を外来で受けている20歳以上の患者を対象候補者とした。質問票への回答は精神的に負担が大きいと判断された患者は対象候補者から除外した。研究施設の倫理委員会より承認を得た後、対象候補者の患者に文書と口頭で研究目的や調査内容、自由意志による参加、個人情報の保護などについて説明し、研究参加の同意があった患者356名を対象者とした。

4. 調査内容

1) 一般的背景

年齢、性別、PS、家族構成など

2) ツール

(1) 治療期にあるがん患者のセルフケア能力尺度の暫定版質問項目

理論上の下位尺度は「保健行動を形成する能力」「がんの存在にとらわれないよう思考を和らげる能力」「人とのつながりを保ち社会生活を調整する能力」「生き方を見つめ自己の発達を促す能力」の4因子から構成された。合計80項目を1~5段階の5件法とし、高得点ほどセルフケア能力が高い状態を示すとした。

(2) 慢性病者の慢性病者のセルフケア能力を査定する質問紙 Self-Care Agency Questionnaire (以下、SCAQ と示す)

本庄が開発し信頼性と妥当性が証明されている $\alpha = 0.91$ の SCAQ を使用した。尺度の使用については、SCAQ の開発者より紙面にて使用の許可を得た。

(3) がん患者用 QOL 尺度の FACT-G

Cella DF らによって開発され信頼性と妥当性が証明されている FACT-G を使用した。開発元より紙面にて使用の許可を得た。

3) 治療の開始時期など

カルテより治療の開始時期や転移の有無などについて情報を得た。

5. 調査期間

2012年3月から2014年9月

6. 倫理的配慮

群馬大学医学部附属病院と群馬県立がんセンターの倫理審査委員会の承認を受け実施した。患者への説明書には、研究の趣旨、匿名性、参加の自由、調査に同意しない場合も医療の不利益は生じないこと、個人情報も守られることなどについて記載した。

7. 分析方法

1) 項目分析

2) 妥当性の検討

- (1) 構成概念妥当性
- (2) 基準関連妥当性
- (3) 弁別的妥当性

3) 信頼性の検討

これらの分析結果について、以下の論文にまとめた。

Kumiko YOSHIDA, Kiyoko KANDA, Development and Validation of the Self-care Agency Scale for Cancer Patients under Treatment, THE KITAKANTO MEDICAL JOURNAL, 67(1), 13-21, 2017.

< 第2段階 >

1. アウトカム達成のための支援モデルの開発を行う。

2. セルフケア能力尺度と支援モデルを用いた介入研究を行い、支援モデルの適切性や効果について QOL の測定結果から評価する。

現在、第2段階に取り組んでいる。

4. 研究成果

平成28年度に信頼性と妥当性を備えた「治療期にあるがん患者のセルフケア能力尺度」を開発した。この尺度は対象者の特徴をふまえた国内外で唯一の尺度である。臨床での活用により治療期にあるがん患者のセルフケア能力を測定することが可能である。研究成果として、論文1と2でまとめ発表した。各論文のアブストラクトは以下の通りである。

論文 1. Kumiko YOSHIDA, Kiyoko

KANDA, Development and Validation of the Self-care Agency Scale for Cancer Patients under Treatment, THE KITAKANTO MEDICAL JOURNAL, 67(1), 13-21, 2017.

Abstract

Purpose/Objectives: This study was aimed at developing a reliable scale for assessing the self-care agency of cancer patients under treatment. **Design:** A cross-sectional study. **Methods:** The study involved patients with cancer receiving care on an outpatient basis at 4 hospitals in the Kanto/Shinetsu Districts of Japan. Items on the Self-care Agency Scale for Cancer Patients Under Treatment (SAC) were developed using a qualitative study. The main research variables analyzed were the temporary questionnaire, the Self-Care Agency Questionnaire for Patients with Chronic Illness, and the Functional Assessment of Cancer Therapy General. After item analysis, construct validity was assessed using confirmatory factor analysis, and this was followed by an analysis of the scale's reliability and criterion validity. **Findings:** A convenience sample of 303 cancer patients was utilized. The fitness indices for the scale were as follows: Goodness of Fit Index (GFI) = 0.911; Adjusted GFI = 0.878. The Cronbach's α coefficient value was 0.900. The SAC was developed as a secondary factor model that included 3 factors and 15 items. The results of the evaluation from this scale correlated significantly with those of outside standards. **Conclusions:** The SAC's construct validity, criterion validity, and reliability were all confirmed.

論文 2. Kumiko YOSHIDA, Kiyoko

KANDA, Relationship between Self-care Agency and Quality of Life Among Cancer Patients Undergoing Outpatient Chemotherapy, THE KITAKANTO MEDICAL JOURNAL, 66(4), 271-277, 2016.

Abstract

Purpose/Objectives: The purpose of this study was to demonstrate the relationship between self-care agency and quality of life (QOL) in cancer patients undergoing outpatient chemotherapy. **Design:** The study used a correlational research design with cancer patients undergoing outpatient chemotherapy at a medical facility. **Methods:** The subjects of the study were cancer patients from Facility A undergoing outpatient chemotherapy. A self-report survey form was distributed to subjects and responses were returned by mail. The main variables of interest consisted of (1) Honjo's (2001) SCAQ to test chronic patients' self-care agency and (2) Cella's (1993) FACT-G for QOL. **Findings:** The average age of subjects was 58.4, and the leading cancer types were breast cancer (38%) and lymphoma malignum (20%). The mean score (\pm SD) for each scale was 124.02 \pm 13.56 on the SCAQ and 72.91 \pm 17.04 on the FACT-G. A significant correlation was found between the scores on these two scales ($r = .245, p \leq .05$). **Conclusions:** People with greater self-care agency have a higher level of QOL. The results suggest the importance of nurses' support in helping to cultivate patients' self-care agency.

5 . 主な発表論文等

(研究代表者は下線)

〔雑誌論文〕(計 2件)

1. Kumiko YOSHIDA, Kiyoko
KANANDA, Development and Validation of the
Self-care Agency Scale for Cancer Patients
under Treatment, THE KITAKANTO MEDICAL
JOURNAL, ,67(1), 13-21, 2017. 査読有り
Doi : <http://doi.org/10.2974/kmj.67.13>
2. Kumiko YOSHIDA, Kiyoko
KANANDA, Relationship between Self-care
Agency and Quality of Life Among Cancer
Patients Undergoing Outpatient
Chemotherapy, THE KITAKANTO MEDICAL JOURNAL,
66(4), 271-277, 2016. 査読有り
Doi : <http://doi.org/10.2974/kmj.66.271>

〔学会発表〕(計 2件)

1. 吉田久美子, 櫻井通恵, 神田清子, 外来化学
療法中のがん患者のセルフケア能力と
Quality of Life との関係, 日本がん看護学
会, 2014年.2月, 新潟.
2. Kumiko YOSHIDA, Kiyoko KANANDA, Development
and Validation of the Self-care Agency
Scale for Cancer patients under
Treatment, International Society of Nurses
in Cancer Care, Hong
Kong, September, 2016.

〔図書〕(計 0件)

〔産業財産権〕

出願状況(計 0件)

取得状況(計 0件)

〔その他〕

ホームページ等 なし

6. 研究組織

(1) 研究代表者

吉田 久美子 (Kumiko Yoshida)・高崎健
康福祉大学・保健医療学部・教授
研究者番号：70320653

(2) 研究分担者

神田 清子 (Kiyoko Kanda)・群馬大学大
学院・保健学研究科・教授